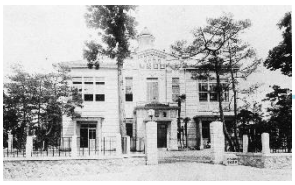
図書館創立１０５周年

今年の6月8日、長岡市立図書館が開館して105年です。
建物の写真とともに長岡市立図書館の歴史を振り返ります。



1918 年 6 月 8 日
大正記念長岡市立
互尊文庫開館（初代）

1948 年 11 月 15 日
明治公園内に
互尊文庫開館（2 代目）

1967 年 12 月 11 日
互尊文庫新館開館
（3 代目）

1987 年 3 月 6 日
長岡市立中央図書館開館

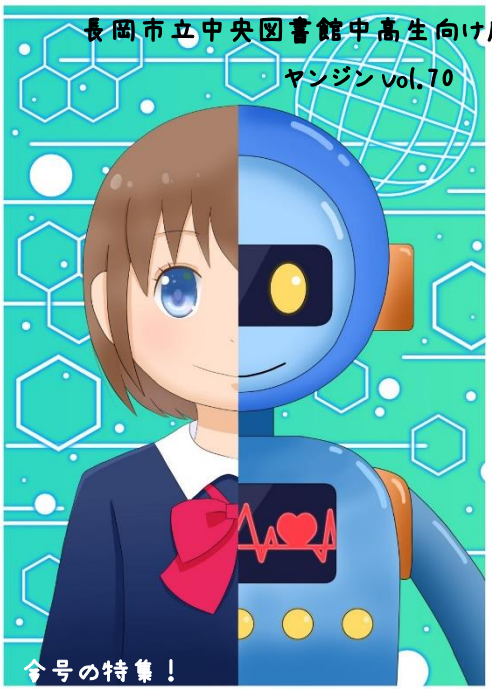
2023 年 7 月 22 日
米百俵プレイスミライエ長岡互尊文庫開館（予定）

●本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています。
編集・発行　長岡市立中央図書館（0258-32-0658）
図書館HP　https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp
図書館メールアドレス　nagaoka@lib.city.nagaoka.niigata.jp

WE'RE YOUNG-JIN

ウィー　アー　ヤン　ジン

長岡市立中央図書館中高生向け広報誌
ヤンジン vol.70　2023.5



●映画化原作本
●おすすめ本の紹介「近未来」
●図書館創立105周年

映画化原作本

映画の原作本を集めました！
映画と小説の世界観、比べてみてはいかがでしょう？

「ラーゲリより愛を込めて」
2022 年 10 月公開

『収容所(ラーゲリ)から来た遺書』
辺見 じゅん／著　文藝春秋

戦後、シベリアに抑留（よくりゅう）された日本人がいた。過酷（かこく）な日々から希望を無くす者が多い中、帰国（ダモイ）を信じ、人間らしい文化的な生活を保つことで、周囲の者の心まで救っていた山本幡男（やまもとはたお）。逆境の中でこそ、人としてどう在（あ）るべきか考えさせられます。

「銀河鉄道の父」
2023 年 5 月公開

『銀河鉄道の父』　門井 慶喜／著　講談社

『銀河鉄道の夜』『注文の多い料理店』など、数々の有名な童話で知られている宮沢賢治。その賢治自身は、いったいどういう人物だったのでしょう。子煩悩（こぼんのう）な父政次郎（まさじろう）の視点から、欠点もある青年賢治を描いています。

「スマホを落としただけなのに」
2018 年 11 月公開

『スマホを落としただけなのに』
志駕 晃／著　宝島社

うっかりスマホを落としたのは彼氏なのに、事件に巻き込（こ）まれていく主人公・麻美。あの手この手で個人情報にアクセスしてくるハッカー。他人事（ひとごと）とは思えない恐怖が描かれたミステリー小説です。SNS の使い方を見直したくなるかも！

「赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。」
2023 年公開予定

『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』
青柳 碧人／著　双葉社

旅をする赤ずきんは、とある縁でシンデレラと知り合う。共にお城の舞踏会に参加することになるが、その道中 1 人の男を馬車で轢（ひ）き殺してしまった。しかしそれは謎だらけの事件で…。赤ずきんが、最後に行きつく旅の結末とは？

今回のテーマは…

近未来

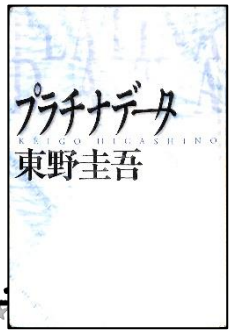
近い未来、どんな世の中になっているでしょう？みなさんはどんな未来を想像しますか？今回のテーマは近未来！みなさんの想像を更にふくらませるような本を紹介します。

『挑戦　常識のブレーキをはずせ』　山中 伸弥／著　藤井 聡太／著　講談社

多くの情報を一瞬で解析し、常識外れの戦法を使う人工知能（ＡＩ）。14 歳でプロになった将棋の藤井聡太棋士は、強くなるためにＡＩを取り入れているといいます。また、ｉＰＳ細胞研究の山中博士は「何も挑戦しないのがいちばんの失敗」と若い人たちへメッセージを送ります。ふたりの対談から未来を生きるために必要なことが見えてきます。

『プラチナデータ』　東野 圭吾／著　幻冬舎

国民の遺伝子情報から犯人を特定する DNA 捜査システムにより、検挙率が飛躍的に上がる中、システム開発者が殺された。特殊解析研究所の神楽は、現場に残された証拠から解析を進めるが、結果は犯人が神楽自身であることを示していた。システムの裏に隠された陰謀とは？近い未来、全国民の遺伝子情報が管理される時代が訪れるかもしれません。

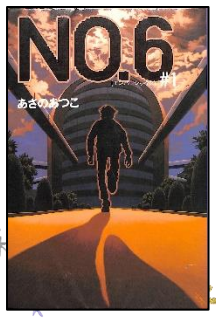


『人類がもっと遠い宇宙へ行くためのロケット入門』　小泉 宏之／著　インプレス

世界の主力ロケットの値段は約 100 億円！宇宙とロケットについて分かりやすく綴られた本書には、ロケットが宇宙へ飛び立つしくみ、GPS 衛星で位置が分かるしくみや宇宙開発など、最近の宇宙事情が満載です。「宇宙旅行」や「宇宙ではたらく」という壮大な夢を描いてワクワクしながら読みたい１冊です。

『夏への扉』　ロバート・A.ハインライン／著　小尾 芙佐／訳　早川書房

物語の始まりは 1970 年 12 月。親友と恋人の裏切りにより、大好きな発明の仕事を奪われた主人公は冷凍睡眠させられ 30 年先の 2000 年の世界に送り込まれてしまいます。主人公は様変わりした環境に戸惑いつつも、新しい技術に心躍りますが…。1956 年に発表された物語です。



『NO. 6　#1』　あさの あつこ／著　講談社

安全で快適な暮らしを実現した理想都市「NO.6」。住人である紫苑は NO.6 の外からやってきた少年ネズミを匿ったことをきっかけに、NO.6 の現実を目の当たりにする。システムで人間を管理し、反抗する意思を見せれば排除されるのだ。数年後、紫苑はハチに寄生された変死体を見てしまい、そのせいで矯正施設へ送られることになってしまう。その窮地に現れたのは……。

『僕とアリスの夏物語』　谷口 忠大／著　岩波書店

今から少し未来のお話。小学６年生の悠翔のもとに、話すことも動くこともできない謎の少女アリスがやってきます。アリスは悠翔達と関わることで話せるようになったり、動けるようになって成長していきますが、アリスの正体とは一体！？この本は、悠翔達の物語とＡＩについての解説が交えて書かれています。ＡＩって何？未来ってどうなるの？気になる方は未来に思いを馳せて読んでみてください。